

現在時指示と発話行為

——It is time 構文と Now is the time 構文の意味と機能を中心にして——

大 竹 芳 夫

0. はじめに

当面する状況を受けて、ある行為が行われるべき時であることを表現する発話に次のような英語の構文がある。

- (1) a. Come on kids, *it's time* to go home.

(Longman Dictionary of Contemporary English³ 以下、LDCE³)

- b. *It's time* to buy a new car. (Swan 1995²)

(1a-b)の It is time の構文(以下、It is time 構文)は、聞き手が帰宅すべき時間であることや新車を購入すべき時期であることを表現している。It is time 構文は(1)のような to 不定詞以外にも次の(2a)のような仮定法過去、(2b)のような助動詞 should といった様々な形式を選択することができることはよく知られている。

- (2) a. *It's time* you *changed* your attitude.

- b. *It is time* we *should* do something about it. (Declerck 1991)

(2a)は「もう態度を変えてもよい頃だ」、(2b)は「そのことに関して私たちは何かすべき時だ」といった意味である。It is time 構文が to 不定詞、仮定法過去、should といったそれぞれの形式を従える場合の相違についてはすでに指摘されており、Declerck(1991)によれば、(2a)のような仮定法過去が用いられるのはその行為がなされるべきであるのにまだ実行されていない、あまりに時間がかかりすぎているということを暗に示したい場合であり、to 不定詞や should が用いられるのはそのような含意を避けたい場合であると説明している。Declerck(1991)に代表されるように、従来の研究では、このような It is time 構文に現われる形式と語用論的含意について主に論じられてきたように思われる。ところで、次に示す構文もある行為や場面が実現すべきであることを表現しているが、これまでの研究では It is time 構文と関連づけられて取り上げられてこなかったように思われる。

- (3) a. *Now is the time* to tell him the truth.

(Longman Dictionary of English Language and Culture)

- b. *Now's the time* to buy a suit, while there are still sales on. (LDCE³)

(3a-b)の Now is the time の構文(以下、Now is the time 構文)は、今こそ本当のことを話すべき時であることや今がスーツの買い時であることを表わしている。It is time 構文も Now is the time 構文も、ある行為の遂行や状況の実現が主張されており、一見すると両者は同義的な構文であるように見える。しかしながら、両構文には様々な特性の相違が認められる。例えば、It is time 構文は to 不定詞以外にも、仮定法過去や should といった形式を選択することができるが、一方の Now is the time 構文は興味深いことに to 不定詞は続けることができるが仮定法過去や should は選択できず、しかも the time のごとく限定詞が time に冠せられる。本研究では、これまで十分に論じられてこなかったように思われる Now is the time 構文の統語的、意味的特性を実証的に明らかにしながら、同じく聞き手に好機を伝えて発話行為を遂行する It is time 構文との意味・機能の相違について考察する。

1. Now is the time 構文の形式的な特性

本節では、Now is the time 構文と It is time 構文の統語的特性の相違について明らかにする。まず、(4)のように、It is time 構文は to 不定詞以外にも、仮定法過去や should といった様々な形式を選択することができる。

- (4) a. They stayed up and watched the replay. “Yeah, you’re excited, but after a while you say, ‘OK, *it’s time to go* to bed’”. (*The Boston Globe*, May 12, 1999) [to 不定詞]
- b. Dr. Harvey: Honey, I think *it’s time* that we sat down and had a little talk. [仮定法過去]
 Kat: It’s a little late for that, Dad. (映画 *Casper*(1995)の台詞)
- c. After a hundred years, maybe *it is high time* Jose Rizal’s dream should be given a chance. (*Asiaweek*, Aug. 30, 1996) [should]

一方、興味深いことに、Now is the time 構文の場合は to 不定詞を従えることはできるが、仮定法過去や should を選択することは自然ではない。

- (5) a. *Now is the best time to visit* the gardens. (*Oxford Advanced Learner’s Dictionary of Current English* ⁵ 以下、*OALD* ⁵) [to不定詞]
- b. **Now is the time you changed* your attitude. [仮定法過去]
- c. **Now is the time we should* do something about it. [should]

次に、両構文の time を修飾する限定表現に着目しよう。形式的に明らかのように、It is time 構文の time には(6)のように定冠詞や不定冠詞はつかないが、Now is the time 構文の time には(7)のように定冠詞が必要であり、無冠詞のままあるいは不定冠詞とともに用いられることはない。

- (6) *It is* {無冠詞/*the/*a} *time* to go to bed.
 (7) *Now is* {*無冠詞/the/*a} *time* to visit the gardens.

ただし、次のように good、great のような形容詞が time を修飾する場合には、(8)(9)のように *It is time* 構文も *Now is the time* 構文も不定冠詞を伴う。

- (8) a. Virtually everyone is selling them these days, from Radio Shack to department stores. And *it's a good time* to buy. (*Time*, July 6, 1998)
 b. Says Doherty: "*It was really a great time* to be Irish. (...)"
 (*Time*, March 18, 1996)
 (9) a. *Now's a good time* to shop for a cheaper mortgage. (*Time*, June 29, 1998)
 b. If you haven't dived before, *now is a great time* to start.
 (*Time*, Feb. 22, 1999)

また、形容詞 right や最上級 best が time に前位する場合には、(10)(11)のように両構文とも定冠詞を伴うことになる。

- (10) a. *It was the right time* to voice the aspirations of the people to the world community. (*Time*, July 13, 1998)
 b. *It may not be the best time* to talk about rockets and satellites.
 (*Asiaweek*, April 5, 1996)
 (11) a. "I think it has made me feel that *now is the right time* to talk about this in personal terms instead of just in policy terms," she said.
 (*The Boston Globe*, May 8, 1999)
 b. It is closest to the sun on April 1, so *now is the best time* to look at it. Go out on a clear night, just after sunset.
 (*CNN Interactive*, March 31, 1997, <http://cnn.com>)

ただし、perfect のように、*It is time* 構文、*Now is the time* 構文のどちらにおいても time の前に生じて不定冠詞、定冠詞を伴う形容詞も存在する。次の(12)と(13)を比較しよう。

- (12) a. Smith's kiddie audience is growing up. *It's a perfect time* for him to do the same. (*Entertainment Weekly Online*, <http://cgi.pathfinder.com>)
 b. The 1997 Tax Act is chock full of tax breaks for the new year—and *it's the perfect time* to start capitalizing on them.
 (*Fortune text edition*, March 16, 1998)

- (13) a. If you need a computer, *now is a perfect time* to buy—without having to worry about being out of date in six months. (*Time*, April 5, 1999)
- b. With excitement about *The Phantom Menace* at ludicrously high levels, *now is the perfect time* to release a *Star Wars* game.
(*CNN Interactive*, April 30, 1999, <http://cnn.com>)

さて、注意すべきことに *It is time* 構文の *time* とは共起するが *Now is the time* 構文の *time* とは共起できない形容詞がある。形容詞 *high* や *about* は(14a-b)のように *It is time* 構文の *time* の前位には生起できるが、(15)のように *Now is the time* 構文の *time* の前位には生起できない。

- (14) a. *It is high time* to consider the problem on a global scale. (*COBUILD* ²)
- b. I believe *it is about time* for me to allow other people a chance to rule.
(*Time*, Nov. 17, 1997)
- (15) **Now is (the) {high/about} time* to consider the problem on a global scale.

ただし、*It is time* 構文において形容詞 *about* が *time* を修飾する場合、(14b)のごとく '*It is about time (for) to ~*' と *to* 不定詞を従える例は少なく、手元の資料には3例しかない。学習英英辞典 *OALD* ⁵ や *LDCE* ³ は *It is about time* の用例として仮定法過去の後続例のみを挙げており、*COBUILD* ² は *It is high time* については *to* 不定詞も *that* 節も従えることができると記述しているが、*It is about time* については *that* 節を従えることができるとのみ表記している。*It is time* 構文について論じた八木(1996)等の従来の研究では、*It is high time* と *It is about time* とが選択する形式の相違については十分に関心が払われていない。*Now is the time* 構文が *{high/about} time* という形をとることができないということと併せて、*It is time* 構文が *about time* という形をとる場合になぜ *to* 不定詞より仮定法過去と調和するのかという問題についても次節で考察する。

2. *Now is the time* 構文の意味的特性

両構文が前節で検証したような様々な形式的な相違を示すのは、*it* と *now* という異なる主題要素を選択していることと関連がある。*It is time* 構文の *it* は、話し手が現在時において関わりを認識している場面的状況を指示しており、Bolinger(1977)が天候、距離、時間、状況といった取り巻く環境を指す「環境の *it*」(*ambient it*) と呼ぶ *it* であると考えられる。

- (16) a. *It's very late.*
- b. *It's ten o'clock.*

環境の *it* は Bolinger (1977) において詳しく考察され、天候、時間、距離、状況はもとより現実のありようやコンテキストの含みから得られる言外のニュアンスをも指示することができ、その意味は最大限にまで一般化できると指摘している。次例では、*it* が「その人の関わり合ってきたこと」を指しているものと聞き手は推論し、「終わった。あいつは死んだ。おれは自由だ。」という意味になる(安井(編) (1996) も参照のこと)。

(17) *It's over; he's dead and I'm free.*

場面的状況を *it* が受ける場合、それは話し手がその場で得たばかりの新しい情報ではなく、発話に先立って、認知的に十分に処理された情報を表わす(大竹(1997)を参照)。*It is time* 構文を用いて現在時を *it* で受ける場合、話し手はすでに現在時を意識していることを表現する。その結果、指示対象である現在時は、話し手の知識において様々な関連事実と同化され、広く包括的な対象として指示されることになる。

このように指示対象が発話に先立ってすでに定まった情報であることを積極的に示す *it* が「現在時」を広く包括的に指示するのに対して、*now* は語彙意味から「現在時」や「今」を聞き手に明確に指し示す。*Now is the time* 構文においては、*now* は聞き手の関心を最も引きつけやすい主題という位置に立ち、聞き手の注意を現在時に紛れなく向けるという重要な役割を果たしている。聞き手の関心を現在時に向け、先行する談話の流れと時間的な区切りを与えるという *now* の特性は、*Now is the time* 構文から離れて、次のような談話標識(discourse marker)としての用法にも確認される。

(18) *Now, I'd like to say something about the exam ...* (Swan 1995²)

(18)の談話標識*now*はSwan (1995²)が述べるように、教師、講演者、指導者が先行談話と現在時を区切り、新しい話しが始まる合図として用いる場合が多い。なお、*Now is the time*構文は物語りなどにおいて次例のように‘*Now was the time*’と過去時制をとる場合がある。このような場合の*now*は、過去時を示しており発話時現在とは一致しないが、当該談話の中で過去の一時点を聞き手に明示することで、先行する談話の流れとの区切りをつけるマーカーとして機能している。

- (19) a. Minard told Stern that “it was a company with a lot of problems but with a new CEO, and it was a great turnaround story—that *now was the time* to buy.” (Fortune, Feb. 5, 1996)
- b. Meeting with aides later in Washington, Forbes decided *now was the time* to get out. (AllPolitics, March 13, 1996, <http://cnn.com>)

Now is the time 構文の *Now* が、明確な一時点を指示することは次の用例からも確認できる。

(20) Now above all times, she felt, *was not the time* to push her luck.

(Steel, J. *West of Bohemia*)

(20)では、now に above all times が修飾し現在時を取り立てており、「その他の時点」つまり任意の過去時、未来時とは明確に区別されて「現在時」が提示されている。また、now は明確な一時点を指し示すので、次の(21)のように時を表わす when 節には生起できないが、it は(22)のように when 節に生じることができ、「～する時間になった時/いざ、～する段になったら」といった意味を表わす。

(21) *When *now is the time* to go, I think all of us should go.

(22) a. When *it's time* to go, I think all of us should go.

(Life, <http://www.pathfinder.com>)

b. When *it's time* to say good-bye, keep it short and sweet.

(Parent Time, <http://www.pathfinder.com>)

さて、実際の用例を観察すると、It is time 構文に先立って、現在の状況が話題としてすでに先行談話で提示されている場合が多い。例えば、(21a-b)では、It is time 構文の先行文脈に現在の状況を述べることをマークする now が明示的に現われており、現在の状況が談話の話題として確立していることを示している。ひとたび now の提示により聞き手の関心が現在時に向けられたならば、現在時は話題として聞き手の念頭にのぼることになるため、後続談話では現在時を it で受けて主題として立てることができる。

(23) a. She has paid her price, and now we must look at ourselves. *It's time* we just left her alone.

(Time, April 5, 1999)

b. Deng's era is over. Now the world is watching a new generation of Chinese leaders. With Soviet communism no more and South Korea's former president sentenced to for sedition and corruption, *it is time* that China made some real progress in politics in order to consolidate its economic achievements.

(Time, March 31, 1997)

次に示す例では、先行談話に now は生じてはいないが、「秋がすぐそこまで来ている」と述べられ、今の季節が談話の話題となっていることが確認できる。

(24) Fall is around the corner, so *it's time* to start planning a ski trip.

(Time, Aug. 31, 1998)

また、先に見た(21)-(22)とも関連するが、次例では‘after 24 years’(24年後)という未来時が明確に指定されており、聞き手の関心はすでに未来時に向けられている。したがって、(25)のように、すでに情報として確定している24年後という時間をitで受けて主題に立てるIt is time構文を用いることは自然であるが、(26)のようにnowを主題に立てるNow is the time構文を代わりに用いることはできない。

(25) Ringelmann has decided that after 24 years *it is time* to retire the aging team.
(*Time*, Feb. 23, 1998)

(26) *Ringelmann has decided that after 24 years *now is the time* to retire the aging team.

次の例では、Now is the time構文に続いてIt is time構文が用いられている。ひとたびnowを主題要素とするNow is the time構文が談話に現われて聞き手に現在時が十分に意識されたならば、次いで現在時をitで受けることは可能である。しかし、両構文の生起順序を入れ替えると不自然になる。

(27) You know what you want to do. *Now is not the time* to be shy. *It's time* to feel good about yourself.
(*Fortune*, April 1, 1996)

(28) *You know what you want to do. *It is not time* to be shy. *Now's the time* to feel good about yourself.

このように、It is time構文の主題itは当該発話場面や文脈の話題となっている現在時を受け、Now is the time構文の主題nowは新たに現在時に聞き手の関心を向けるという点でそれぞれの構文は異なる。

さて、このような異なる特性を有するitとnowという主題を選択することにより、It is time構文とNow is the time構文の補部にも前節で確認したような相違が観察される。It is time構文のtimeはある種の形容詞が修飾しない限り、通例無冠詞であるが、Now is the time構文のtimeは基本的に定冠詞theを必要とする。このことは次のように説明されよう。つまり、nowはitとは異なり、現在時を語彙として明確に保証して表現するため、これと呼応して補部に現われるtimeも明確な特定時を表わすことになる。そのため、Now is the time構文の補部のtimeには定冠詞theが冠せられ、任意の時間とは区別された明確な特定時を表現すると考えられる。Now is the time構文の補部に現われるthe timeは、ある特定の行為を行ったり、状況を実現する特定時として唯一的に指定されることになる。実行すべき行為や実現すべき状況は、通例the timeに後続する(for)to不定詞が表現する。しかし、Now is the timeがto不定詞を後続せず、先行文脈の情報に基づいてthe timeがどのような行為を実行したり、状況を実現する時間であるのかが推論される場合も観察される。

- (29) a. Sorry Dan, baby, you should sell the firm. *Now is the time.*
(*Fortune Daily Business Report*, Nov. 24, 1997, <http://cgi.pathfinder.com>)
- b. If you still haven't purchased a color inkjet printer, *now is the time.*
(*The Boston Globe*, May 20, 1999)

(29a)では直前の文の内容を受けて「今こそ(会社を売る)その時期だ」、(29b)では先行する if 節の内容を受けて「今こそ(カラーインクジェットプリンタを買う)まさにその時だ」と、いずれも先行文脈の情報に基づいて前方照応的に the time が特定化されている。

さて、前節で見たように、Now is the time 構文の the time は形容詞による修飾を受ける場合がある。「絶好の時、唯一の好機」を表現する perfect や最上級の best などとは明確な時間表現を作るため Now is the time 構文の time の前位に生起できる。しかしながら、「およそ、その時間である」ことを表わす about や「時が十分に進んだ」ことを表わす high といった形容詞は時間の幅を含意するため、明確な時間指定を補部に要求する Now is the time 構文とは調和せず、time の前位には通例用いられない。特に about は、‘a little before or after’ (OALD⁸) (「少し前、または少し後」という意味を表わす形容詞であることから、about time は「ある行為を行う時刻、または時期」になりつつあることを表現する場合だけでなく、少し過ぎてしまったと話し手が見なす場合にも用いられる。そのため、about time は、本来ならば、ある行為や状況がすでに実現しているはずなのに、現実にはまだ実現していないことを受けて、現在の事実と反することを仮定する仮定法過去とはよく共起する。しかし、ある行為や状況が「まだ実現されていない」ことを積極的に表現する to 不定詞は、about time に潜在的に認められる「少し過ぎてしまった」という意味と合致しない。そのため、It is about time の後に to 不定詞を従える例が実際に少ないと考えられる。

さて、Now is the time 構文は、通例仮定法過去を従えない。これは、Now is the time 構文が、主題の now により聞き手の関心を現在時に向けた瞬間に、ある行為や状況を実現する時刻、時期であることを直接的に同定して伝達する構文であるからである。仮定法過去は、話し手が言語的知識や常識などと現状を照合して、ある行為や状況がすでに実現しているはずだと想定されるのに、現実にはまだ実現していないと認定判断する表現形式である。したがって、Now is the time 構文の直裁的な同定と、現在の状況を情報として十分に処理したうえでの仮想、仮定を表わす仮定法過去はなじまないと言えよう。もし、Now is the time 構文に仮定法過去を続けるとすれば、聞き手の注意を向けただけの現在時に対して、その現在時と本来は結び付くべき状況を仮定、断定できるほど「発話に先立って情報処理済み」であることを主張することになり、情報伝達上好ましくない。これに対して、it を主題に立てる It is time 構文は、発話に先立ってすでに現在時の状況が情報として処理済みであることを表わすため、仮定法過去を許すのである。

ところが、このような理解を一見難しくしているように思われる事実がある。次のような It is time 構文が now とともに生起する用例である。

- (30) a. **Dick Jones:** I had to kill Bob Morton because he made a mistake. *Now it's time* to erase that mistake. (映画 *RoboCop*(1987)の台詞)
- b. **Michael:** Revenge. Sweet lasting revenge. *Now it's time* for all of us to get a taste. (映画 *Sleepers*(1996)の台詞)
- c. “*It now is time* for our two countries to look squarely at our past and forge a future-oriented relationship,” Kim said.
(*CNN Interactive*, Oct. 8, 1998, <http://cnn.com>)

(30a-c)では、主題に *it* を立てて現在時がすでに聞き手に意識されていることを想定しながら、*now* をその前(=30a-b)あるいは後(=30c)に付置することで聞き手の関心を現在時に向けている。このようにすでに情報として定まっている現在時に対して、あらためて聞き手の関心を向けることが求められるのはどのような場面であろうか。それは、例えば現在がある行為や状況を実現する時刻、時期であるということは予定、計画、約束などすでに定まっているのであるが、聞き手が当該発話場面において一時的に失念していると考えられるため、聞き手の意識にのぼらせて再認識させるような場合である。次の例を考えよう。

- (31) “I did my best and I did it without compromising the principles I have stood on for years and years.” *Now*, he says, “*it's time* to move on.”
(*Time*, July 20, 1998)

(31)の *It is time* 構文の先行談話では、長年にわたる過去の行為を述べている。そのため、話し手の内心で定まっている現在の決心を *It is time* 構文で提示する前に、まず‘*Now*’と発話して聞き手の関心を現在時に引き付け、それまでの過去に関する話の流れを変えていると考えられる。興味深いことに、*now* と共起する *It is time* 構文が仮定法過去を従える例はきわめて少なく、*to* 不定詞を従える場合がほとんどである。(i) *Now it is time* (ii) *Now it's time* (iii) *It is now time* (iv) *It's now time* に続く形式をデータベースで分析した結果、*to* 不定詞が続く用例は *The British National Corpus* (52 例中 51 例：1 例は現在形)、*CobuildDirect Corpus Sampler* (47 例中 45 例：2 例は仮定法過去)、*TIME.com* (6 例中 6 例) となり総用例の 97% が *to* 不定詞であった。このことは、聞き手の注意を現在時に引き付けると同時に、「現在が何かを実行、実現する時刻・時期なのだ」と *to* 不定詞を用いて直接的に叙述することは自然であるが、反事実の仮想を表現することはできないということを示唆している。

3. *Now is the time* 構文の語用論的特性

実際の用例を観察すると、*Now is the time* 構文は指導的立場の人物や権威者の発話として用いられることが多い。次の (32a) は上院多数派政党のロット院内総務とハスタートホワイトハウス報道官の共同声明文、(32b-c) は米大統領の演説であり、いずれも *Now is the time* 構文が用いられ、民衆の関心を引き付けて行為の要請を行っている。

- (32) a. “Today, we affirm our strong commitment to addressing your concerns. *Now is the time* to move on and focus our attention on an agenda that strengthens the nation. (...)” (CNN Interactive, Feb. 21, 1999, <http://cnn.com>)
- b. Clinton: *Now is the time* for all rich Democrats to come to the aid of their party. (Time Daily, June 11, 1997, <http://www.pathfinder.com/>)
- c. “*Now is the time* to make those changes,” Clinton said at a Rose Garden ceremony Tuesday, (...).
(Time Daily, March 31, 1999, <http://www.pathfinder.com/>)

筆者の米国人インフォーマントである Rebecca Anne Marck 先生からは、タイピングの練習用の文として用いられるという次の *Now is the time* 構文を提供いただいたが、(32a)と同様に政治家の演説文であると考えられる。

- (33) *Now is the time* for all good men to come to the aid of the party.

Now is the time 構文の主題 *now* は、発話場面や先行文脈の中では十分に意識されていなかった現在時に対して聞き手の関心を積極的に向けさせるという機能をもつ。指導者や政治家はこれから指導や政策を実行するにあたり、実行を開始する時点としての現在時(*now*)を明確に示すことが要求される立場である。聞き手は、指導者が「今こそ、～する時だ」と現在時がある行為や状況を実現する好機だと断定するのを受けて、自分に対する要請あるいは依頼という発話行為として理解する。次例では、‘*Now is the time*’が現在時を明確に示す布告の表現として用いられていることが、‘*declared more pointedly*’という先行表現からわかる。

- (34) Today David Foley, spokesman for European election supervisors in Bosnia, declares more pointedly, “*Now is the time*.” (Time, Feb. 3, 1997)

もちろん、*Now is the time* 構文が常に、指導的立場の人物によって発話されるわけではなく、また聞き手に対する要請や依頼表現として機能するわけでもない。次の(35a)では、要請や依頼といった行為を伝達しているのではなく、服飾デザイナーが「今はこれまでとは違って、女性がドレスアップして衣服を楽しむ時代だ」という主張を行っている。(35b)では、「水が冷たいほどカキはおいしい」という事実を踏まえて、今が生ガキの食べ時であるということを主張している。(35c)では、相手に現在時が好機であることを伝えており、懇願(*implore*)行為の表現として *Now is the time* 構文が用いられている。

- (35) a. Landau says *now is the time* for women to dress up and have fun with clothes.
(CNN Interactive, Nov. 19, 1998, <http://cnn.com>)

- b. The colder the water, the better the oysters, so *now's the time* to taste these raw, briny filter feeders. (*Fortune*, text ed., March 3, 1997)
- c. '*Now is the time*,' he implored him, 'to produce an eligible country residence, if you have one handy.' (*The National Trust Magazine*, 1990)

話し手自身に関わる行為が表現される場合、まさに今がその行為を起こす時だと、内心での判断、決意ということになる。

- (36) a. I have decided that *now is the time* to get tough.
(Gist, M. *Life at the Tip*)
- b. "I believe that every person knows when the time comes to make a change in his or her life. I have given this considerable thought for several years and realize that *now is the time* for me to move on," she said.
(*CNN Interactive*, Nov. 9, 1995, <http://cnn.com>)

前節で確認したように、*Now is the time* 構文も *It is time* 構文も共に聞き手に「現在時」を告げる表現であるにもかかわらず、主題要素として *now* と *it* のどちらを選択するかに応じて、*It is time* 構文は *time* に続く形式として仮定法過去を従えることができるなど相違が認められる。では、仮定法過去を選択する *It is time* 構文は、どのような語用論的要請に基づいて発話されるのであろうか。*It is time* 構文に生じる仮定法過去は、Leech(1989)が *unreal past tense for present meaning*、Eastwood(1994)が *unreal past* と呼ぶように、ある出来事や状態が現在時において起こっているはずなのに現実には起こっていないことを表現する。

- (37) a. *It's time* you children were in bed. (implies 'You are not in bed.')
- b. *It's time* (that) you changed this car for a new one. (Leech 1989)

(37a)は、「子供が寝ていない」という現在の状況を受けて発話され、現在の時刻においては「子供は寝ている」という事態がすでに実現されているはずなのに、という話し手の心的態度を表現している。現在時が聞き手の意識にのぼっている場合、*to* 不定詞を用いた *It is time* 構文は、現在時が何をやる時刻かを聞き手に直接教えたり、一方的に通告するような場面で用いられる。一方、仮定法過去を用いた *It is time* 構文が、聞き手にある行為の要請表現として効力を発揮することができるのは、聞き手自身が話し手の仮定を当然なこととして理解できるという前提に立っていることは言うまでもない。仮定法過去を用いる話し手は、聞き手である子供に対して、子供が就寝時間を知っていることを踏まえて、現実があるべき姿とは違っているという話し手の判断を一緒に考えさせている。そうすることで、まだ寝ていない子供自身に反省を促しながら就寝を勧めているのである。

4. まとめ

本稿では、ある行為の遂行を要請・依頼したり、ある状況の実現を主張するといった発話行為と結び付く表現である *It is time* 構文と *Now is the time* 構文を比較・対照しながら、それぞれの形式および意味的、語用論的特性の相違について論じた。両構文の補部に現われる *time* の限定表現や *time* に続く形式の異同を検討しながら、こうした形式的な違いは、それぞれの構文が発話場面に応じて *it* と *now* という異なる主題要素を選択して現在時を指示することに関係していることを明らかにした。次いで、発話に先立ってすでに聞き手の念頭に現在時が意識されていると話し手が想定する *It is time* 構文とは異なり、聞き手の関心を新たに現在時に向ける *Now is the time* 構文は、指導的立場の人物の発話にも多用され、要請、依頼、懇願や決意表明といった発話行為を遂行するために用いられることを実証的に検証した。さらに、仮定法過去を選択する *It is time* 構文がもたらす語用論的効果についても考察した。

参考文献

- Bolinger, D. 1977. *Meaning and Form*. London: Longman. 中右実(訳) 1981. 『意味と形』東京: こびあん書房
- Declerck, R. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha. 安井稔(訳) 1994. 『現代英文法総覧』東京: 開拓社.
- Eastwood, J. 1994. *Oxford Guide to English Grammar*. Oxford: Oxford University Press.
- Leech, G. 1989. *An A-Z of English Grammar and Usage*. London: Edward Arnold.
- 大竹芳夫. 1994. 「It is that 構文に関する意味論的、語用論的考察」『英語語法文法研究』創刊号, 117-131. 英語語法文法学会.
- 大竹芳夫. 1997. 「指示と情報—*That's all right* と *It's all right* を中心として—」『信州大学教育学部紀要』第 91 号, 61-72. 信州大学教育学部.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Swan, M. 1995. *Practical English Usage*. 2nd edition. Oxford: Oxford University Press.
- 八木克正. 1996. 『ネイティブの直観にせまる語法研究—現代英語への記述的アプローチ—』東京: 研究社出版.
- 安井稔(編). 1996. 『コンサイス英文法辞典』東京: 三省堂.

Dictionaries

- Collins COBUILD English Dictionary New edition*. 1995. London: HarperCollins Publishers Ltd.
- Longman Dictionary of Contemporary English*. 3rd edition. 1995. London: Longman.
- Longman Dictionary of English Language and Culture*. 1992. London: Longman.
- Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. 5th edition. 1995. Oxford: Oxford University Press.

